

【緑地の樹】

マルバシャリンバイ(丸葉車輪梅)

緑地の桜広場と呼んでいる広場の道路側に1本、どこか奥ゆかしげに枝を広げている。4、5月頃に梅の様な五弁の白い花が枝先に群れるよう咲き、晩秋にはブルーベリーかと思間違ふような青紫色の実をつける。耐寒性、耐潮性があるので庭木や海辺によく見られる。緑色のつやつやした肉厚の葉は、車輪状に伸び、卵型で愛らしい。

丸葉車輪梅は、奄美大島では「テーチ木」と呼ばれ、「大島紬」の重要な染料の一つである。テーチを煮出した汁で染めた糸は、茶褐色に染まる。染まった糸を泥田と呼ばれる田んぼの様な沼に80回以上も沈めたり、泥を摺りこんだりする。すると、泥田の鉄分と車輪梅のタンニンが化学反応を起こし、「大島紬」特有の色に染まっていく。光沢のある茶色や、ブロンズ色に染まった糸で織った布は、落ち着いた品のいい色合いの衣服へと変身していく。1300年の歴史をもつ技術とそれを継承する文化は、奄美の人々にとってどれほど高い価値を持つのだろう。

プロフィール：バラ科 常緑低木

緑地の丸葉車輪梅は、20年ほど前に、Sさんの家の庭から移植されたものだ。たった一本の木にも様々なドラマや歴史がある事をこの木は教えてくれている。

(かつた)

